

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1056-1		
自己評価作成日	平成29年1月30	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku./12/index.php">http://www.kaigokensaku./12/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成29年2月7日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が日々快適に過ごせる様環境整備に努めており、利用者様の楽しみの食事は経営者が毎年季節の食材を育て毎日のメニューに取り入れています。利用者様とも保存食作り(イチゴジャム、ゆずジャム、ブルーベリージャム、切り干し大根等)には一緒に作業をする事も年間行事の一環になっています。その人その人にできる事も違いますが、できる事を探しながら日々の生活の中で一緒に行っています。出来るだけ個別ケアを重視しながら取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

農村地域の自然豊かな環境の中にあり、利用者が職員の付き添いがなくても敷地内を自由に行動できるように配慮がされている。また、敷地内で収穫した野菜や果物を活用し、旬の食材を使った料理の提供や利用者と一緒にジャム作りを行うなど、季節感を毎日のケアの中に取り入れている。家族に対しては、利用者の方々の生活の様子が変わるように写真をたくさん載せたお便りを一人ひとり個別に作成して毎月の利用料請求時に送付しており、利用者と家族の繋がりが継続できるよう工夫をしている。終末期の看取りについても積極的に対応しており、地域の医療機関と連携を図りながら利用者にとって終の棲家となるよう職員が一丸となって支援をしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所へ掲示し意識付けすることで実践に繋げている	入口やフロアーに掲示し、常に誰もの目に入るようにして職員だけでなく家族を含めた来訪者とも共有できるようにしている。カンファレンス時には、管理職から日ごろのケアが理念の実践に繋がっているのかを確認をしている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加をしたり施設行事への地域住民の参加を通し交流している	日ごろからホーム周辺を散歩をすることにより、地元の人たちと顔なじみの関係づくりにつとめている。また、地域の「芋煮会」や「芋祭り」などの行事には積極的に参加している。	ボランティアの訪問が固定化された人たちがなっている傾向があり、新しい人たちや団体との交流の機会を積極的に広げていってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの季刊誌を発行したり施設行事への参加や地域広報誌への掲示をして頂いたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度にて家族、地域民生委員、役所職員を交えてその時のテーマにて話し合い、報告を行っている	利用者家族、民生委員、地域包括センター職員や市担当課職員の参加を得て、2ヶ月に一度定期的に開催している。会議で話し合ったことは議事録に残し、職員全員で共有し日々のケアに活かしている。	地域の方が民生委員のみなので、地元の関係者の方たちにも参加していただけるよう働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の連絡会や交流会を通したりしながら取り組んでいる	行政が主催する「香取市地域密着サービス連絡会」「香取市ネットワーク会議」「香取市ケアマネジャー連絡会」に必ず参加し、情報交換等を通して協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが毎年県の身体拘束研修に積極的に参加したり社内研修の中に取り入れることで日々取り組んでいる	年間の内部研修計画を立て、担当となった職員が自ら研修資料を作成し講師を務めている。玄関やホールの掃き出し窓等は施錠せず、利用者が自由に庭へ出入りが出来るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対象職員は外部の研修に参加してもらう事や社内研修を行う事で防止に努めている		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や社内研修を通し取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度家族や利用者様への説明し理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず会話をし意見や要望を吸い上げる様に努めている	毎月の家族へのお便りを通して利用者の具体的な生活の様子を知らせることにより意見や要望を出していただけるよう工夫をしている。家族が来訪した機会を捉えて意見や要望を聞くようにしている。玄関の受付には「意見箱」を設置しているが今まで活用されては	苦情受付相談窓口の周知用ポスターが植物に隠れていたり、「意見箱」も目立たない場所においてある。言葉では言い出せない家族の意見が埋もれてしまわないようにする工夫をしてもらいたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や普段のコミュニケーションを通し反映させている	職員の要望を取り入れた勤務体制になっており離職者が少ないため、利用者にとっても顔なじみの関係づくりにつながり、ホーム全体に落ち着いた雰囲気が感じられる。職員間のライングループを作成し、小さな出来事に対しても職員全員で共有して迅速に対応をしている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に給料体制の見直しや自己評価を通しその人それぞれの能力を見極めながら取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	対象職員を見極めながら外部研修への参加や内部の勉強会にて取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期での連絡会、交流会への参加を通し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人家族とのコミュニケーションを密にはかることで環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を良く聞き情報収集を積極的に行うことに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を集めその方の必要としていることを見極めるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを図り一緒にできる事は行うようにしながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、行事への参加を促し足を運んでいただける機会を持つようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や家族との交流、地域行事への参加を「通し」支援に努めている	地元の床屋が定期的に訪問理容を行ってくれており利用者との馴染みの関係ができています。初詣は個々の利用者ごとに希望に沿った寺社を参拝し、今までの仕来たりが継続できるよう支援している。友人が来訪し一緒に外出する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が間に入る事で関わりあえるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方へはその後の経過を家族へお聞きしたり時には伺ったりしながら取り組んでいる		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に話を良く聞き本人の気持ちを汲み取れるように取り組んでいる	利用者毎に担当者が配置されており、個々のニーズ把握や他の職員からの情報収集に努め、一人ひとりの生活パターンや雰囲気大切にしながら部屋の整理整頓を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時には家族への情報収集をしたりご本人の話を良く聞く事で把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペースに合わせてながらコミュニケーションを図ることで把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実現可能な目標を立てられるようご本人や家族との話を良く聞く事で意見要望を吸い上げで反映している	利用者の日々の心身状態の気づきについて個別の支援経過記録に記載し、職員間で情報共有するとともに介護計画に反映させている。	長期目標や短期目標が漠然としているので、達成感が実感できる具体的な目標を設定するとよいと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやカンファレンスを通し情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人それぞれの状況に合わせてながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や外出を通し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院や往診を行い状況報告を行いながら支援している	ホーム近くの医師が定期的に往診に来てくれており、家族に対して毎月のお便りの中で受診結果の報告をしている。他の医療機関を希望する利用者の受診には家族の協力を得ている。	定期的な訪問歯科診療など歯科医師との連携体制づくりも検討するとよいと思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問を通し何かあれば常日頃から相談したりしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族や病院関係者との情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時の状況にて家族との話し合い主治医との判断の中、事業所の対応、在り方も十分説明しながら支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」「看取り看護・介護に関する同意書」を整備し、入所時に利用者や家族に丁寧に説明している。必要となった時には改めて利用者や家族と話し合い、医療機関や関係者との連携を図りチームで取り組んでいる。今までに数人の利用者をホームで看取った実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや研修・勉強会を通して取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し日頃の地域との交流を通し協力体制を築いている	年2回の避難訓練(内1回は夜間想定訓練)を実施している。 お米やカップラーメン等を非常用食料として備蓄している。	緊急マニュアルが見えにくくなっており、避難経路図の掲示がないので改善が必要である。訓練には地元消防団や近隣住民の協力を得るようにして欲しい。

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれの状況を把握し、日々の声掛けなど配慮している	各利用者の部屋の入り口にはのれんを下げ、ドアを開けた状態でも個人のプライバシーが守られるようにしている。リビングの席については利用者の相性に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話を聞きその際に選択肢を与える事で汲み取れる様努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ無理強いしない様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションを通し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの状況を把握しコミュニケーション図りながらできる事を実践している	ホームの畑で収穫した野菜を使った季節感のあるメニューや利用者と一緒に作ったジャムをヨーグルトなどのデザートに取り入れ食事を楽しいものとする工夫をしている。また、ホットケーキタワーやぼた餅づくりなど一緒におやつを作り、利用者の食に対する意欲を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々それぞれの状況を把握し、必要に応じ代替え等取り入れながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣になるよう声掛けしながら行ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々それぞれの状況を把握し、必要に応じては声掛けやオムツの種類の変更等も考えながら支援している	排泄チェック表をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるように声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じた服薬の調整や水分量を気にかけてながら予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間は決まってはいるものご本人のペース、個々それぞれに合うよう支援をしている	一日おきに入浴支援を行っている。ADLが低下し、浴槽の出入りが難しくシャワー浴のみ利用者もいる。入浴剤を利用してリラックスした雰囲気に入浴ができるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況により支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との相談をしながらその時の状況にて把握し支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々できる事を探しながらそれぞれ楽しみを作っていける様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々のコミュニケーションの中で希望等把握し必要に応じては家族と協力しながら支援している	洋服の購入などの買い物やホームから離れた場所への外出など個別に希望がある時には、要望に沿えるように職員態勢を整えて対応している。車が空いていれば、利用者を誘い気軽に近隣ドライブを楽しんでもらえるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々それぞれお小遣いを預かり必要に応じ使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じ支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節感が感じられるよう配慮したり光の加減も眩しくならないよう気にかげながら居心地良く過ごせる様配慮している	リビングは明るく掃除も行き届いており、居心地のよい空間になっている。天井から差し込む光が眩しすぎないようにターフを活用して調光を工夫している。季節の行事に合わせた壁面の飾りつけを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の配置換えを行ったりしながらその時の状況に応じ工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全も考えながら馴染みのものを置いたり懐かしい写真や思い出のものを飾ったり利用者様の居心地良い空間を作るよう配慮している	位牌を拝む習慣のある利用者には火の必要のないロウソクを活用するなどその人の生活習慣が継続できるように支援方法を工夫している。家族の写真や置物を飾るなど一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。カレンダー等は見やすい位置にし、足元には物がないように片づけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の動線を考え配慮しながら取り組んでいる		